

ホノルル市モイリリ地区における戦前の日本人町

飯 田 耕二郎

はじめに

モイリリ（正確にはMoiliiliモイリイリ）地区はワイキキの北側でハワイ大学のあるマノア地区から少し下がったところにある。ここには現在、ハワイ日本文化センターもあり、公園の真中に広島県の厳島神社を模した鳥居も建てられて、ホノルル市内の中でわずかに日本人町の面影を残している地域である。ここには今から百十年以上も前に日本人が住みつき、その後、日本人の集住地として発展していった。例えば一九三〇年の米国国勢調査によるとこの地区を含むマツカレー¹⁾モイリリ地区には日本人が二九一一人住み、全体人口の七七・〇%を占めていた。この地区については、すでに『Moiliili-The Life of a Community』(Moiliili Community Center, 二〇〇五年)をはじめ先

や年鑑の住所録などをもとに、ここに住んでいた人達について、その職業や経歴について明らかにしたい。

一．発展の概要

本章では、ジャック・Y・田坂「モイリリ日本人町一〇〇年の歩みを辿る」で記された年表から主な出来事や人物に関するものを取り出してこの町の発展の様子を見てみよう。

一八九五（明治二八）年 山口県出身の柏原喜八が夫人と二人の子供を伴い、ハワイ島コハラの砂糖耕地から、モイリリ・グランドの東側に定住する。モイリリに住み着いた最初の日本人といわれ

ている。

一八九七（明治三〇）年 福岡県人の松本菊太郎が養蜂業の有望なことに着目し、モイリリの土地をリースして養蜂業に着手したが、その土地は無尽蔵に石塊が掘り出せる石山だったので、モイリリ・クオリイ（石切場）を設けて採石業（ハワイ・バラスト社）を創業する。

一九〇〇（明治三三）年 ハワイがアメリカ合衆国のテリトリー（準州）となり、移民の契約労働が廃止され自由移民となったため、多くの日本人が砂糖耕地からホノルルに出て、モイリリにも定住する者が増えていった。

一九〇三（明治三六）年 モイリリ日本人学校が創設される。

一九〇五（明治三八）年 福岡県人の山口七蔵がハワイ・バラスト社に入社し、松本菊太郎に協力して建築請負に従事する。

一九〇六（明治三九）年 本派本願寺ハワイ別院に駐在の加藤哲勝・開教師の尽力によりモイリリに布教所が設立される。

福岡県人の堤千吾が来布（ハワイに来航）し、モイリリ日本人学校で教鞭を執る。

一九〇八（明治四一）年 福岡県人の物井安太郎がオアフ島ワイアールア耕地からモイリリに定住し、セメント工事、石垣築造業に従事する。

一九〇九（明治四二）年 山口県人の田中勇輔がモイリリで日本料理の店「東京亭」を創業する。

一九一〇（明治四三）年 一九〇三年に沖縄移民とし来航した与原岩六が砂糖耕地で就働した後、モイリリに移り日本人として初めて養豚業に着手し成功する。

一九〇七年に福岡県から来布した秀徳源次郎が土木建築請負業を興し、モイリリに木材工場を擁して建築用品の販売や製造に当たる。

一九一（明治四四）年 広島県から一九〇八年に来布した胡子信一が材木の置場と製材所を設けて、材木商として盛業。

一九一四（大正三）年 山口県人・秋崎義司・社司が南キング街二二〇二番地にモイリリ稻荷神社を創建した。

一九一八（大正七）年 モイリリ日本人学校を「モイリリ日本語学校」と改称。また熊本県出身の緒方数彦が四月に校長として迎えられた。

一九一九（大正八）年 広島市出身で一八八八年に来布した影佐熊太郎の長男で、広島県立商業学校を卒業した帰米二世・影佐司勝が日米雑貨食料品の「影佐商店」を創業。

一九二〇（大正九）年 広島県出身の小林栄之助が土木建築請負業を始めて成功。

山口県出身の中村好太郎が「中村グラージ」を創業して自動車部品の販売に応じる。

一九二六（大正一五）年 モイリリ・フィールド（野球場）の筋向いに「ホノルル・スタジアム」が完成し、戦前・戦後を通じての

半世紀の間、スポーツの殿堂としてモイリリの新しいシンボルとなった。

一九三〇（昭和五）年 モイリリのユニバーシティ・アベニュー（大学通）が開通・舗装される。

広島県人・国宗小佐次郎が「モイリリ・ストア」を開業。また同県人・小田純二が経営する小田建築会社の新しいオフィス・ビルがモイリリの東端に竣工する。

一九三二（昭和七）年 広島県人・池田嘉一が「モイリリ・マーケット」を開業。

一九三九（昭和一四）年 ユニバーシティ・アベニューに「パーシテイ・シアター」が竣工・開館。

以上が、戦前までの主な出来事である。

2. 主要人物の履歴

ここでは、第一章の年表中に太字で示した人物について、曾川政男『布哇日本人銘鑑』（一九二七年）などでその履歴を調べると次のようであった。なお国宗小佐次郎についてはモイリリに移る前までの経歴であるが、いずれもこの地域の発展に貢献した人達である。

松本菊太郎（菊三郎）氏

福岡県三潴郡鳥飼村出身。明治二十六年十月、二十九歳の頃に妻を伴って来布し、布哇島八カラウ耕地で就労するが、妻の病気のためホノルルに出て、カリヒにあつたボンミル（骨粉肥料）会社の労働者となる。妻は日本に帰国させ（後に離縁し）、友人の紹介でカメハメハスクールの校長のタムソン氏から四十二ドルで蜜蜂を買い求め、モイリリに土地を借りて養蜂業を開始した。この商売が繁昌し二年半で四千ドルの純益を挙げ、家屋を購入してモイリリに定住した。そして幸運にも家屋の背後の借地に奇岩を発見し、これを砕いて家屋の建築用の石材や道路の下敷用の砂利として販売したところ非常な人気となり、需要に応じて財を成した。また建築工事を請負い、明治三十三年頃から順調に発展し、白人を相手に大小の工事を手広く敏捷に応じて数年のうちに巨万の富を築いた。またホノルルに四か所の家屋を所有し、その家賃も年に千ドルを超えるといわれている。⁽²⁾

大正七（一九一八）年、彼は日本で死亡した。⁽³⁾

山口七蔵氏

原籍地 福岡県八女郡北川内村

氏は明治三十三年三月来布した、ホノルルにありて二ヶ年普通労働に服して後ち日米雑貨商店を経営すること三ヶ年にして松本菊太郎氏と協力し土木建築請負事業に従ひて十数年間種々な大建築物の

工事に関与した、大正八年松本菊太郎氏病死後同家の事業財産の整理に非常なる尽力をした、公共心に富み明治三十五年モイリリ日本語学校創立の発企者にして連年役員に推され現に学務委員長である、其他布哇日本人協会の幹部として活動しモイリリ区長、東本願寺ホノルル別院副教団長、モイリリ青年会顧問、ホノルル教育会理事、学校問題試訴期成会理事として社会的に寄与大である、

堤千吾氏

原籍地 福岡県久留米市京町

氏は明治三十九年十一月来布した、ホノルルにあつてモイリリ日本語学校に教鞭を執ること一年、明治四十年五月布哇パラスト会社に入り土木建築請負業に従事す、現に同会社土木建築部の主任である、モイリリ日本語学校学務委員である。⁽⁵⁾

初井安太郎氏

原籍地 福岡県嘉穂郡足白村

明治四十年十二月一日来布せる氏はオアフ島ワイアルア耕地に一年間労働してホノルルに出でモイリリに住居してセメント、石垣等の請負事業に従事して今日に至る、地方の有志でモイリリ日本語学校学務委員、ホノルル日蓮宗教団の役員に推される。⁽⁶⁾

秀徳源次郎氏

原籍地 福岡県八女郡黒木町

氏は明治四十年一月布哇に上陸した、ホノルルに居ること二三年にして建築事業に関係し遂に土木建築請負業者として身を立つることになった、工事請負の外にモイリリに木材工場を有し建築用品、家具等を製造してある、日本人技工組合以来のホノルル日本人請負業者組合員で数次役員に挙げられた。⁽⁷⁾

胡子信一氏

原籍地 広島県安芸郡江田島村

氏は明治四十一年三月布哇に来る、ホノルルにありて外国人家庭に働くこと約三ヶ年にして令兄と協同建築請負業を開始し業務の発展に伴ひて材木部を設けた、其後令兄の帰国するや一切の事業は氏の個人経営となりモイリリなる南ベレタニア街の現在場所を購入し米大陸より材木を直輸入し材木置場には製材工場を設け日本人間唯一の材木商として盛んに営業してある、毎日十六七人の職人、労働者を使用せるに徴するも営業振りを知ることが出来る、地方有数の事業家として知らるる氏は公共事業にも熱心で本願寺、モイリリ日本語学校、其他の公共団体に關係し役員として尽力しつつある。⁽⁸⁾

緒方数彦氏

原籍地 熊本県菊池郡西合志村

氏は熊本県第一師範学校を卒業し付属小学校の訓導として奉職していたが布哇より招聘されて大正三年五月二十日を以てホノルルに上陸した、馬哇島ブウネ日本語学校に教鞭を執ること一兩年、ホノルルに出で総領事館の囑託となったが大正七年四月モイリリ日本語学校長として就職以て今日に至る、教育界の幹部にして教科書編纂其他の事業に参与、尽力した、⁽⁹⁾

影佐熊太郎氏

原籍地 広島市河原町

氏は明治二十一年来布、布哇島の耕地にルナとして働くこと数年、同三十年帰国、二年後再び布哇の人となったが二年にして日本に帰った、郷里広島市に於て封筒製造業に従事したが大正二年布哇新報社員として三度、布哇に来る、ホノルルに居住しケカウリケ街にレストランを開店したが大正八年モイリリに転居、大正十三年料亭東雲亭を経営して今日に至る、(中略)長男司勝氏は明治二十二年五月十三日布哇に生れたる日本人系米国市民にして八歳の時父に伴はれて日本に行き明治四十五年布哇に帰来、村上商店、本重商店保険部に勤めたが大正七年米国選抜徴兵に応じて兵役に服し翌年除隊となるやモイリリに日米雜貨食料品商影佐商店を起して今日まで営業してある、同氏は地方の新進人物で東部商業組合書記、モイリリ日本語学校役員、モイリリ青年会長として公共事業にも熱心である。⁽¹⁰⁾

小林栄之助氏

原籍地 広島県御調郡中庄村

氏は本姓宮地氏、小林家に入つて養子となる、明治三十五年十二月来布、布哇島ナアレフ耕地に就働する二年にしてホノルルに出で米国人請負師キャンベル氏の配下に就働したが信任されて日本人部監督となる、キャンベル氏歿後即ち今を距る二十年前独立して請負事業を開始し着々成功、多年モイリリに在住したが、ピンガム街に宏壮な邸宅を新築し大正九年移転、事務所を住所内に置き内外人の土木建築業界に活躍して今日に至る、日本人間有数の請負業者にして数十名乃至数百名の職人工夫を使用してある、公共事業に熱心で永らくモイリリ日本語学校学務委員長に推され、曹洞宗別院顧問、モイリリ地方青年会顧問、広島県人会理事、出雲大社顧問、日本人技工組合役員として社会的貢献大である。⁽¹¹⁾

中村好太郎氏

原籍地 山口県大島郡小松町

氏は明治三十年八月中旬布哇に来る、布哇島カウ、パハラ耕地に就働、二十年間一日の如く精励し製糖場の仕事に熟練して重用せられた、大正五年一家族を挙げてホノルルに移り太平洋曹達水会社に勤めたが大正九年モイリリに中村グラージを開設し自動車用品一切販売、自動車修繕に従事し業務の発展に伴ひ現在場所に地所購入建物を新築し大正十五年四月一日移転、盛んに営業して今日に至る、

(中略)長男永一氏は明治四十三年来布し令弟浅助氏と協力して事実上中村グラージの経営に当つてゐる。⁽¹²⁾

国宗小佐次郎氏

原籍地 広島県佐伯郡平良村

氏は明治三十九年九月、自由渡航者として布哇の人となりオアフ島ワイアルア耕地に八ヶ月労働してホノルルに出でホテル街の藤井商店に勤めて六ヶ年を過こした、大正元年日本を訪問し同年帰布、キング街大島呉服店に入り数年後独立商業を営むため同店を辞し大正九年イヴェリー通り鳳梨会社前に国宗商店を開業し日米雜貨食料品の販売に従事して今日に至る。⁽¹³⁾

小田純二氏

原籍地 広島県山県郡壬生町

一九一〇年に現在の建築請負業に進出したが氏はコンクリート建築に独特の技量を有し、事業は年を遂ふて隆昌に赴き、一九三〇年には株式会社を改組して愈々発展の域に達した。従来既に幾多の大コンクリート建築を完成し、今やコンクリート建築界の一大権威者である。⁽¹⁴⁾

主要人物の傾向を探ると、当初は松本菊太郎のハワイ・パラスト社に連なる福岡県出身の人達を中心に、土木建築関係の仕事から材木業

へと進み、さらに商店や自動車業を営む広島、山口県出身者が増えてきたことが分かる。

3. 一九二一年および一九二〇年におけるモイリリ地方の日本人

①一九二一年頃の地図にみるモイリリ地方

図1は武居熱血『ホノル、繁昌記』(本重眞壽堂、一九二一年)に収められている地図である。武居熱血の『ホノル、繁昌記』についてはすでに拙稿でも紹介したが、⁽¹⁵⁾これはモイリリ地方の日本人の分布を示すものである。

当時すでにモイリリ日本人小学校、本願寺布教所、日本人共同墓地などが存在し、貸家キャンプ、商店、湯屋、鍛冶屋が目立つ。そしてベレタニヤ街に沿って商店が並んでいる様子が分かる。個人の建物としては松本菊三郎の住宅がかなり大きく記され豪邸をうかがわせる(写真参照)。また山口(七蔵)と思われる住宅もみられる。

②一九二〇年の日本人年鑑にみるモイリリ地方日本人の職業

『布哇日本人年鑑(第十七回)』(布哇新報社、一九二〇年)の「布哇日本人々名録(ホノルル市)」に記載されている人達のうち住所がモイリリとなっている人物の職業と出身地を調べたところ、次のような結果を得た。

まず出身県であるが、多い順に山口六九人、広島六二人、熊本四五

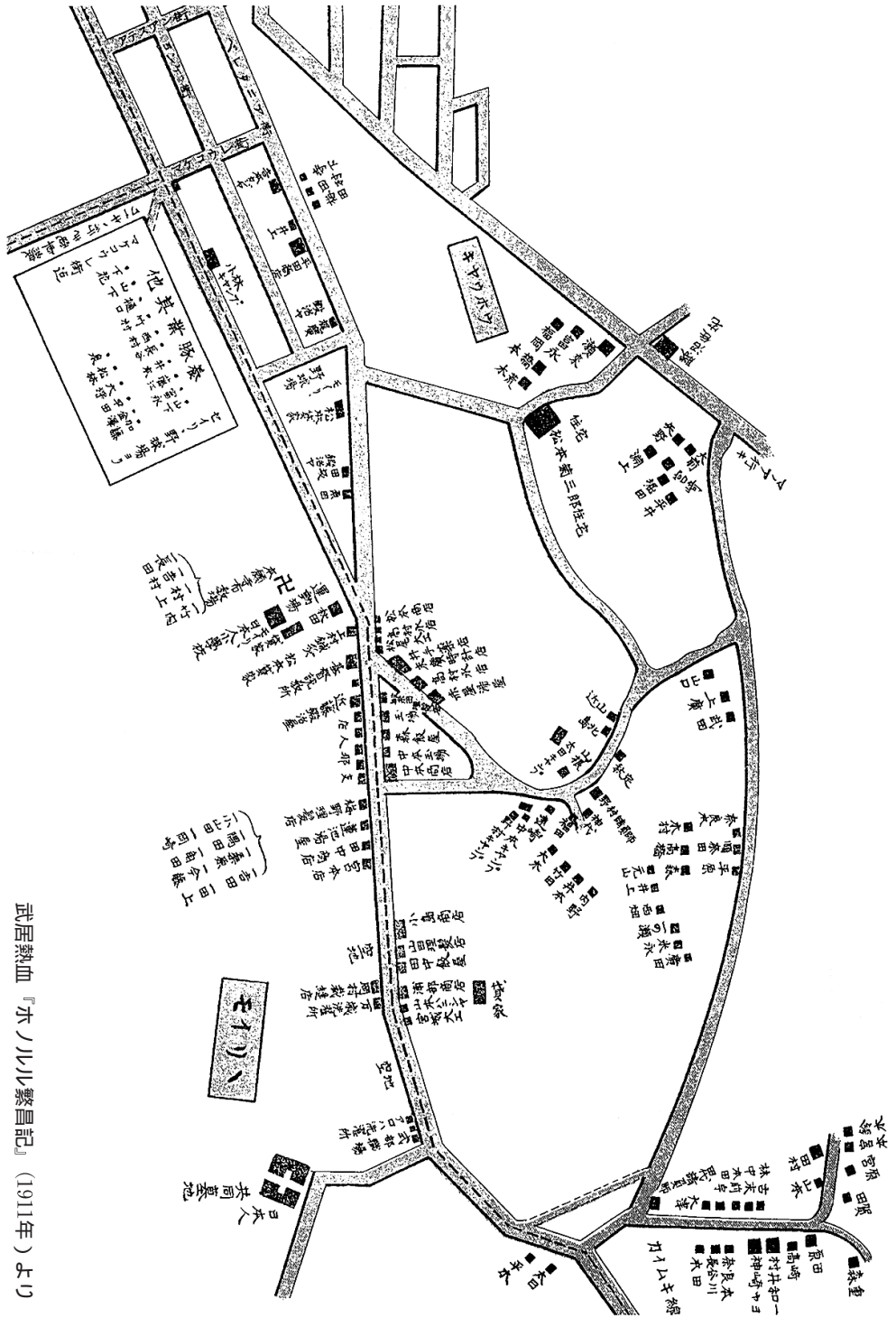


図1 一九二一年頃のモイリリ地方

武居熱血『ホノルル繁昌記』(1911年)より

表1 モイリリ日本人職業別統計

順位	職業	人数	順位	職業	人数
①	大工	23	⑬	園丁	7
②	養豚	18	⑮	野菜業	4
③	(商)店員	13	⑮	花園業	4
③	労働	13	⑮	白人雇	4
⑤	農業	9	⑮	禦(馭)者	4
⑤	荷馬車業	9	⑮	雑業	4
⑦	(家庭)奉公	8	⑲	理髪店員(主)	3
⑦	事業(家)	8	⑲	乳屋働	3
⑦	石工	8	⑲	自働車運転士	3
⑦	(土木建築)請負師(業)	8	⑲	自働車業	3
⑦	ペンタ職	8	⑲	日雇	3
⑦	石割(工場)働	8	⑲	果樹栽培業	3
⑬	コック	7			

2人以下のもの省略。『布哇日本人年鑑(第十七回)』(布哇新報社、1920年)の「在布哇日本人々名録(ホノルル市)」より飯田作成。

人、福岡四二人、岡山六人、福島・愛媛各五人、和歌山四人、宮城・新潟・長野・福井各二人、神奈川・島根・高知・沖縄各一人であった。やはりハワイ全体と同様に西日本の四県が圧倒的に多いが、沖縄

県が少ないのが注目される。第二章でみた有力者に福岡県出身者が多かったが、全体としては四位である。全体人数は二五〇人であるが、広島・山口の両県のみで過半数を占めている。

また、モイリリの住所の人々の職業の内訳は表1のようであった。とくに大工、養豚、石工関係の仕事が目立つ。全体として労働者の集住する都市近郊地域の様相を呈し、商店はそれほど多くはなかったと思われる。

職業と出身地との関係では、あまり密接なものは見出せなかったが比較的特定の県に偏っている例としては、大工が三名中、山口一名、広島八名、その他四名で、石割(工)場働は八名中、熊本五名、福岡二名、その他一名、ペンタ(ペインター)職は八名中、山口五名、その他三名、請負師は八名中、福岡四名、広島二名、その他二名で、このうち福岡には第二章で登場する堤千吾、広島では小林栄之助も含まれる。また、福岡の野村義一は図1中の野村請負師と思われる。

4. 一九二二年頃のモイリリ地方の様相

ハワイの日本語新聞である『日布時事』は一九二二年当時、「地方訪問記」と題して日本人の集住地域について連載していたが、同年九月一日(第七四六三号)で「同胞の発展著しき・モイリリ地方・約二千名の同胞居住す(一)」と題して同地方を紹介している。

「モイリリ地方」といへば連想するものは石割工場と石槌神社と稲荷さんと盆踊等であつたが、発展しつつある今日は、そんなものより特に青年会が地方覚醒の為に努力している事が目に見えて来た然らば現今のモイリリ居住同胞の生活及び活動振は如何であるといふに……

先づ同胞多数が商店を開ひている処から紹介する。末廣商店、村上水店、小山水店、阪田商店、西口肉屋、前田薬店、影佐商店、中村商店、梯自転車店、畑裁縫店、野田商店は魚屋もしている。西畑商店、濱田スターベカリー、松本パン屋、豆腐屋、山田商店、安達理髪店、瀬戸理髪店、もう一軒で四軒ある。其から東洋写真館、松本オートスタンド、モイリリ、オートの二箇所、松本商店、中村グラーヂ、松本石切場の畑中石切屋、鍛冶屋は大村、田坂、小川、大空蹄鉄、高實ハイブ屋、金村の諸氏が居る。東雲亭は田中さんの経営である、又山口馬糧店もある。

土木請負業者としては、野村、小田、岡崎、鈴井、原口、道休、弘中、荒川の諸氏が居る。花作り業者は牛尾、本山、上野其の他四五軒もある。養豚業者は秋貞、山近、柳田、小山田、田ノ上、金森、一ノ瀬、原田、宮川の諸氏が熱心によつて居る。そしてモイリリ野球グラウンドを中心としては、大宮商店、西口商店、田中商店其の他多数ある。殊にヤング街が突ぬけてベスボーランド迄届いたのは、モイリリ発展の一部分と見てもよい。

東本願寺、西本願寺の布教場もあり、お互ひ一般同胞信仰者の

為めに□□しつつあることも悦ばしい一事である。亦基督ではヤング奥村氏が習慣に二回或ひは三回宛同胞姉弟の覚醒を計るため出張し、カイクキのフランク、クック氏の関係あるモイリリ幼稚園に於て説教しつつあることもモイリリ発展策の一つである。殊に同地方は主に日本語学校を中心として文化の為に向上を計り、何事があつても学校中心に活動しつつあるので其れを見ても発展が解るのである。

モイリリ地方には二千名近くの同胞が居住している。其の中には住宅のみとしている人もあり、白人家庭奉公人男女共五六十名もあり、それに右に記載した如く事業家も多数あり、薪屋商売している荒川、稲葉、神代氏などあり、ズレーヤツラツカーを商売としている清水、竹田、新宅、藤岡、荒川、渡邊、弘中、原、金森の諸氏が居り、凡て自分の職務の為め、人の為、社会の為に努力して発展策を講じて居るといふ同胞の心裡と思想が如何に変化し向上しているかも考へて見られるのである。

同地方同胞は日語学校を中心として何事にも向上発展を希望しているが学校当事者は緒方校長、学務委員長は小林栄之助氏、副委員長は平田氏である。其の他父兄は総ておもだちたる人々であるが、殊にモイリリ青年会では眼醒ましい活動振りを発起している将来は社会覚醒即ち社会奉仕に与かるものは青年の力に依らずして何ぞやと言ひたいのである。同校の学生児女は五百名余に達して居るといふ。(以下略)

文中のズレーは女子洋服専門店、ツラツカーはトラック運転手と考えられる。

傍線は第二章で紹介した人物で、太字の山田商店は第一章の年表中には出てなかったが、『布哇日本人銘鑑』に掲載されているので、ここで紹介しておく。

山田新太郎氏

原籍地 広島県安佐郡三川村

明治三十三年一月十七日布哇の人となった氏は馬哇島ナヒク耕地に労働し日本人商店に勤めたが同年十二月布哇島ヒロ、カウマナ耕地に四年働き明治三十八年ホノルルに出でカパフルに養豚業に従事すること十一年間、其傍ら同地に馬具店を経営していたが大正八年日米雑貨食料品商山田商店を開業し全力を此営業に濺いで今日に至る、地方の有力家で東部商業組合長、モイリリ日本語学校会計、モイリリ西本願寺理事長、布哇日本人協合理事、布哇中学校常務委員として公共事業に尽力して⁽¹⁶⁾おる、

なお、同年発行された日布時事編輯局編『布哇同胞発展回顧誌』、(日布時事社、一九二二年)の広告をみると、東部商業組合のメンバーとして、モイリリからは山田新太郎の他、西口正之助(西口商店)、影佐熊太郎(影佐商店)、田中永太(田中商店)、平田定省の名がみえる⁽¹⁷⁾。同書には、他に実業家・村上二八⁽¹⁸⁾、請負師・宮尾岩次郎、

馬糧商・山口鶴吉(記事文にあり)、産婆・石田壽恵⁽¹⁹⁾、理髪並に裁縫店・山田清六、雑貨食料品商反物帽子類直輸入・坂田商店(広告参照)、産婆・山形イト⁽²⁰⁾、請負師・倉下藤七、同・大谷一郎⁽²¹⁾の広告が掲載されている。

平田商店と山田理髪店は前の記事文にはみえないが、図1には登場する。ほかに図1にみえる記事文中の商店、人物として田中商店、末廣商店(時計店)、野村請負師、神代、秋定(貞)・山近・小山田・一ノ瀬(養豚)がある。

5. 一九三九年におけるモイリリ日本人商店街

一九四〇年頃になると道路も整備され、住宅や商店が増えてホノルル東部の日本人町として発展していった。その頃の様子を物語るのが、『日布時事』(一九三九年二月一六日)の商店の地図(図2)を含む以下の記事である。真珠湾攻撃の約二年前の年末クリスマス頃の、見出しは次のようになっており、以下本文へと続く。

モイリリ日本人町大売出し繁昌記

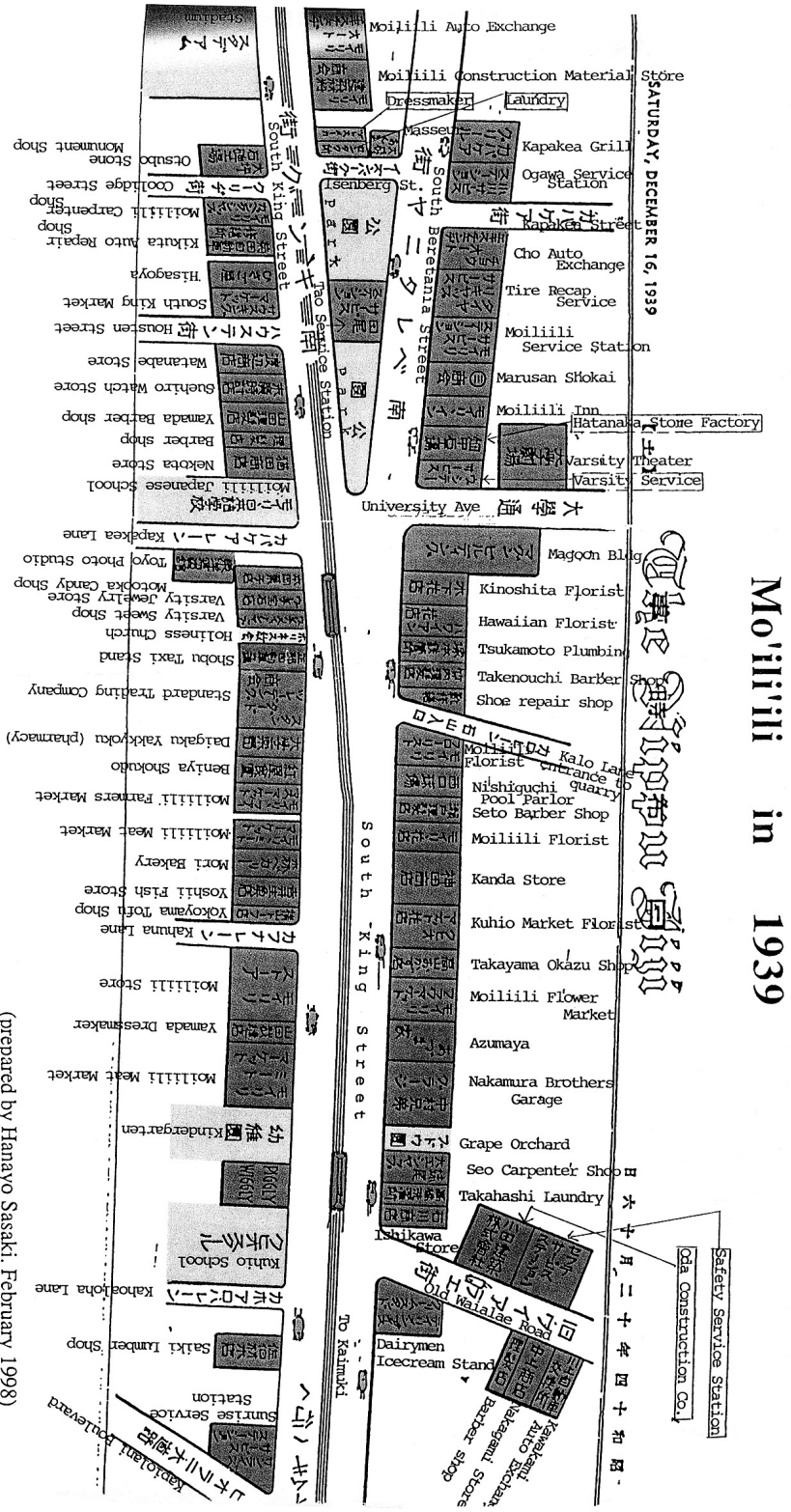
地方買い物中心地としての真面目を完全に發揮

自動車スペース沢山値段大勉強

ローカル・ショッピング・センターとしてのモイリリ日本人町

の發展は目覚しく最近の殷盛は驚異に値する、殊にクリスマス、

ホノルル市モイリリ地区における戦前の日本人町



モイリリ in 1939

(prepared by Hanayo Sasaki, February 1998)

HANAYO SASAKI, JAPANESE CULTURAL CENTER OF HAWAII

1939 map of the businesses in Moiliili.

2 『Moiliili-The Life of a Community』 (Moiliili Community Center, 2005年) P127より転載。

年末大売出し期間に当っては益々其の本領を發揮しているが之と云ふのも同町が買物中心としてあらゆる商品が揃っているからである。

堂々一流の食料、雑貨、服装品店が各数軒である、立派な薬局があり、写真館がある、時計宝石店、食堂、ペカリ、生魚店精肉店等ホノルル市中何処へ出しても遜色なき商店が軒を連ねて居る、完備したサービス・ステーション数軒あり、自動車奉仕に技を競てる、水店、理髪店、玉場、果物野菜店がある、花屋は数軒あり新鮮な生花が馥郁として華を誇つてる、娯楽機関としてはホノルル最新の常設映画館が聳え設備に於て豪奢を謳はれて、宴会パーティーには「あづまや」が街の中央部に構へて二百数十人を容る大宴会場を擁し、忘年会、新年会、結婚披露宴に大勉強して、サイミン・スタンドもあれば便利な軽便食堂もある、洗濯所もあればタキシードもあるし、他地に無い石工店もあり、大工場もある、斯く枚挙して来るとモイリリ日本人町では揃はないものはない、其の上交通の要衝に当り、街路は広く、自動車パーキングに場所が十分あつて、時間の制限がなく心配がない、地方人は勿論のことカIMUMキ、ワイアラエ、マノア方面からの顧客を吸引する意味がここにある、其の上の店も薄利廉売顧客奉仕の念に燃え、どこにも負けない大勉強振りには益々此処モイリリ日本人町の繁栄を招来するものである、

続いて著名な商店を紹介しているが、その前にモイリリ日本人町が發展してきた過程を次のように述べている。

モイリリと云へば其昔は石割場を中心とした日本人区域で街路も狭く、ペーブされて居らず、又多くの同胞商店も明朗性を缺いた所謂場末であつた、それが道路の拡張、各商店の新築と拡大、それにカIMUMキ、マノア、カハラ方面の顧客を受けて東部の下町たるの觀を呈して全然昔の面目を一新している、モイリリ日本人町は、一、二の外人商店を除き日本人が独占しているのも心強い主な商店として次の店を紹介しており、店名と主な内容は以下のとおり。このうち中村兄弟グラージは第一章に登場した中村好太郎の二人の子息、モイリリ・ストアは国宗小佐次郎、モイリリマーケットは池田嘉一がそれぞれの経営者である。また、末廣時計店は図1にもその名がみられる。

モイリリ自動車交換所：中古自動車売買

中村兄弟グラージ：グッドリッチタイヤの特約販売店、自動車付
属品は一切が揃つ

モイリリフラワー・マーケット：贈物の花籠・花輪、クリスマスツリー・フラワー

モイリリストア：食料、呉服、服装品、雑貨、オモチャ類

モイリリサービスステーション…グッドイーヤタイヤおよび

チューブの特約販売店

サンライスサービスステーション…グッドリッチタイヤの特約販

売店

モイリリ・イン…サンドウィッチ、サイミン、ワンタンミン、大

晦日ソバ

モイリリマーケット…食料品

大学薬局…万年筆、化粧品、チョコレート、写真器、オモチャ、

文房具、アルバムなど高尚な贈答品の本家

福屋おかず店…御馳走の本家

吉井生魚店…布哇、日米産の魚類

東洋写真館…クリスマス、新年に一家揃った記念写真

森ベカリ…クリスマス・ケーキの注文

あづま家…「本文と同じ」

猫田商店…生魚、日米食料品、酒類

未廣時計店…時計、結婚指輪、文房具、電気器具類、売薬各種

これらの商店はいずれも広告を掲載しているが、他に次の商店が広告を出している。

木下花屋…新鮮な切花、植木鉢、クリスマス花

神田商店…日米食料品、雑貨、小間物化粧品、服装品、和洋呉

服、流行ツレス地

モイリリ・ミートマーケット…店主直営の養豚場より豚肉、其他

牛肉野菜果物類

紅屋食堂…正月餅、ロースチキン、すし、そば、サイミン、スキ

焼、支那料理

この時期は自動車交通の発達により、図2にみられるように道路が整備され、ホノルル市東部地区の交通の要衝となり、駐車場も充分あつて、ダウンタウンのように時間の制限がないので好都合というのである。そこで特に自動車関係の店が目立っている。また花屋も多いが、「モイリリフラワー・マーケット」の経営者である大久保長吉について調べると、彼はマノア谷に住み、次のような経歴の持主であつた。「新潟県北蒲原郡加治村に生れ、明治三十九年五月来布、各種の事業に携わつて奮闘し、昭和の初め現在の地に花作業を始めて今日に至る⁽²²⁾」。モイリリ近くのマノア谷はこの時期、近郊農業が行なわれ日本人が花などを栽培し、モイリリで販売していたのである。

また、薬局や時計屋などはそれ専門の店ではなく、他に様々な商品を販売していたことは興味深い。「あづま家」は経営者が田中とあり、第一章の年表で一九〇九年創業の「東京亭」のことと思われる。ハワイ大学にむかう大学通に出来たばかりのパーシテイ・シアター（大学劇場）もみられる。

おわり」

現在、ハワイ大学のキャンパスから二〇〇〇年に「NHKの自慢」が行なわれたスタン・シエリフ・センターなどの体育施設や駐車場のある区域に向かつて歩くと、崖のような切り立った所があり、そこが昔、石切り場であったとのこと。今は誰も気がつく人はいないが、一時期、切り取った石が日本人の生活を支えていたのである。さらにキング街まで下っていくと、通りに面して今でも花屋が数軒残っている。また、1931 MOHILI-MARKETと正面に書かれた大きな建物が残されており、⁽²³⁾その隣に幼稚園が今も存在する。その近くには日本料理の店や日本食料店もあり、筆者はハワイ大学からの帰途この食料店でよく買い物をする。ベレタニヤ街とキング街に挟まれた三角形の公園には鳥居が建てられたが、その傍には柏原喜八を記念した石碑があり、百年以上前からここに日本人が住み着いた証拠が残されている。公園内にあつた日系のスター・マーケットは残念ながらもなくなつてしまつたが、ベレタニヤ街に面して、ハワイ日本文化センター (Japanese Cultural Center of Hawaii) の立派な建物が建っている。ここにはハワイの日系人の歴史に関する常設の展示館があり、昔の商店などが再現され、生活用品や写真などが並べられている。しかし今のところあまり見学者がないようで残念である。

このようにホノルルの中では唯一、日系人の生活の面影を残しているのがこのモイリリ地区である。ハワイには多くの日本人が観光で訪れるが、ワイキキのすぐ近くにあるものの、やや淋しくなつてしまつ

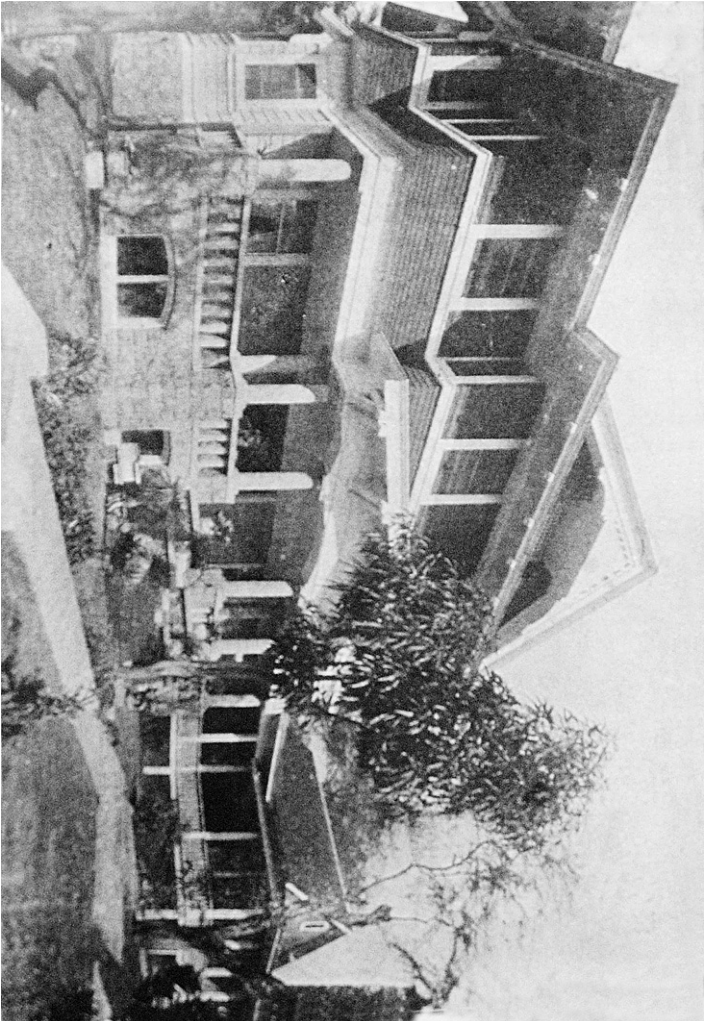
たこの地区の存在をもつと観光客にアピールし、実際に現地を訪れて日系人の歴史を肌で感じてもらう工夫を考へるべきだと筆者は思う。

注

- (1) ジャック・Y・田坂「モイリリ日本人町一〇〇〇年の歩みを語る①」、『EAST-WEST JOURNAL』二〇〇三年一月一五日―同年三月五日。
- (2) 島田軍吉編『布哇成功者實傳』、布哇日々新聞社、一九〇八年、ホノル、の部五―八頁。
- (3) 川添櫻風『移植樹の花開く』、同刊行会、一九六〇年、一七七頁。
- (4) 曾川政男『布哇日本人銘鑑』、同刊行会、一九二七年、二三九頁。
- (5) 同前、一六五頁。
- (6) 同前、三七五頁。
- (7) 同前、三六八頁。
- (8) 同前、三〇四頁。なお小野寺徳治他編『布哇日本人発展写真帖』、米倉彦五郎、一九一六年、八六頁の写真のキャプションに、「胡子國松氏は広島県安芸郡江田島村鷺部浦の産なり明治三十四年六月渡布し大に就働して蓄財をなし一時帰国せしも大正元年六月再び渡布の上建築用材新古材木亜鉛板其他の販売業を営む傍ら請負業に従事し数多の工夫を役し甚だ繁忙を極めつつあり。」とあるのは彼の兄のことと思われる。
- (9) 同前、九二頁。
- (10) 同前、一一五頁。
- (11) 同前、二九三頁。
- (12) 同前、一七五頁。
- (13) 同前、二一五頁。
- (14) 藤井秀五郎『大日本海外移住史 第一編 布哇』、海外調査会、一九

- 三七年、下編 二〇頁。
- (15) 拙稿「ホノルル市アララ地区における戦前の日本人街」(『大阪商業大学商業史博物館紀要』第一二号、二〇一〇年)
- (16) 同前、二三四頁。
- (17) 日布時事編輯局編『布哇同胞発展回顧誌』、日布時事社、一九二二年、六八頁。
- (18) 同前、九二頁。
- (19) 同前、九六頁。なお、宮尾岩次郎については小野寺徳治他編『布哇日本人発展写真帖』、米倉彦五郎、一九一六年、一二六頁の写真のキャプションに、「宮尾岩次郎氏は広島県安佐郡三川村古市の□渡布以来刻苦精勵大に蓄財の上ホノルル市モイリリに大なる家屋を建築し請負業に従事し内外人を華客に盛に業務に勉勵しつつあれば營業日を遂ふて盛大に赴き内外人の信用高し。」と紹介されている。
- (20) 同前、一〇九頁。
- (21) 同前、二八二頁。
- (22) 前掲注(14) 八八頁。
- (23) 図2では、モイリリ・ミート・マーケットが二カ所みられるが、右側の方がおそらくモイリリ・マーケットの間違いで、ここに古い建物が残されている。
- 〔付記〕本稿の資料収集にあたっては、大阪商業大学比較地域研究所の研究プロジェクト「グローバルゼーションの中のアジア経済と社会」班の研究費を使わせていただいた。
- また図1は友人の原寛氏に作図の協力を得た。記して感謝申し上げます。

松本菊太郎氏邸



『布哇日本人務展写真帖』(1916年)

ホノルル市モイリ
理髮並に裁縫店
山田清六
山田清六

熊本田尻製産前産後血の道樂
布哇二手販賣元
兼食料品反物帽子類直輸入
ホノルル、市モイリ
坂田商店
電話七九二九一
郵筒 七六六

『布哇同胞務展回顧誌』
(1921年)

新年末特價大賣出し

流行ツレ地 ▲和洋呉服 ▲男女服装品
 ▲オモチャ ▲其他年末贈答品豊富
 ▲高級絹織物以上御良の方へ上等贈答
 ▲其他の品も、▲10倍以上の方へは
 西本服廠を無代運送

モイリリ日本人町
 電話九二六六二 屋 三

モイリリ・ストア

▲お正月用品一切大絶販賣
 ▲御達物用ハム ▲日米食料品

▲日本酒
 ▲ビール
 ▲ソル





米國、布哇日本の
鮮魚 及るび等

いつも美味で生々したものを取
 揃えて居ります
 ●お正月のおさかなは何卒弊店
 へ御用命下さい

モイリリ日本人町
 店主 吉井 茂一
 電話九三三二二

吉井生魚店




を初め年末の御贈答のケーキ
 誕生の命名配り物のケーキ
 大絶強調運致します

モイリリ日本人町
クリスマスケーキ

森ベカリ
 電話九二二二 森安 敏三

お寫眞はぜひ東洋寫眞館で
 撮影し、鮮やかな色調に仕上げたものを
 贈答に最適です

東洋寫眞館
 電話九二二二 森安 敏三




毎日新鮮な各種切花を豊富
 に用意し、華正を授け
 風しく御運致し不御
 御用命に應じます

贈物
 花籠
 花輪

クリスマスツリー
 クリスマスツリー
 クリスマスツリー
 クリスマスツリー
 クリスマスツリー
 日本大賣出し中

モイリリフラワーマーケット
 電話九二八三八
 店主 大久保 真吉

MOILILI FLOWER MARKET
 C. OKUBO, Prop.
 2667 S. King St.
 Phone 92818



忘新年宴會
 御結婚披露宴
 其の他パーティ一切

モイリリ日本人町中央
 電話九二五五 田中

あづま家



『The Nippu Jiji』 (1939年12月16日)

